

その名大口

誇りと愛着のある学校

H28年5月14日

「夢を持ち、信じて頑張れば必ず花開く」 5/9

昨年度から、生徒会の企画で「県高校総体出場選手激励会」を実施しています。各部、この高校総体県予選を目標にしてきたと思います。3年生にとってはこの大会で引退となります。「チーム大口」です。ある部の勝利は、みんなの喜びです。大口高校の全生徒・全職員で応援しています。県下で大口高校を知らない人はいません。悔いのない戦いをしてください。



大口高校の伝統は文武両道です。授業を中心とした勉強を頑張り、そして仲間を大事に部活動も頑張るといことです。昨年度の部活動加入率は88%でした。たくさんの方が部活動をしてほしい。大口高校の教育スローガンは「たくましい体、たくましい心、たくましい学力」です。部活動を通して学ぶことは多い。「たくましい心」は具体的な活動や経験を通してしか獲得できません。それは、部活動であり勉強です。



選手代表澤津一希君（ラグビー部主将）、エールは野球部

目標を持つことの大切さについて話をします。イチロー選手の小学校6年の時の作文は有名です。小6のイチロー選手のすごさは、明確な目標（プロになる）を持っていること、目標にいささかの迷いがなくことです。365日の360日を練習（友だちとの遊ぶ時間は1週間で5～6時間）にあて、目標実現のためにしっかり代償を払っています。そして周りに感謝していることです。

サッカーの香川真司選手は、神戸のサッカー大好き小学生でした。阪神大震災を経験し、激励に来た三浦知良選手に憧れ、プロ選手になることを決意します。プロになるために中学は親元を離れ仙台に進みます。彼は言います。「小中高校で自分が飛び抜けていると感じたことはなく、大きな才能があると感じたことは今まで一度もありません。プロになって日本代表になるには、練習するしかない。目標を見失うことは一度もなく、絶対にプロになるという強い気持ちは常々持ち続けてきました。強い気持ちさえあれば、プロになれ日本代表にもなれ海外でプレーすることもできている。」そこで子どもたちに次のメッセージを送っています。「夢を持ち、信じて頑張れば必ず花開く」。彼の思いの強さには、阪神大震災の経験があると思います。



PTA総会（5/11）で、新役員が承認されました。右写真は、挨拶する新PTA会長の別府弘律さんと感謝状を受け取る永田明さん。



会長：別府弘律 副会長：今田修二、細樫清美、松下ひとみ

以前話したこともあります。勝つための三つの要素は、一つは「思いの強さ」です。思いが強いから徹底した練習をするとも言えるし、練習することで思いはさらに強くなるとも言えます。二つ目は「基礎・基本の徹底」です。強いチームは基礎・基本が徹底されミスがありません。三つ目は「自己を知り相手を知ること」です。勉強も一緒です。各部の健闘を祈ります。

「心が変われば・・・人生が変わる」 4/18学年朝礼 大窪賢一先生

4月も半ばが過ぎ、皆さんも「新入生」から「大口高校1年生」へと少しだけ成長したことと思います。私自身も1978年4月のこの学校の門をくぐり入学した者です。何年前かと数えてみたら、なんと38年も前のことで、皆さんとの年の差が38もあることに少なからずショックを受けています。

大口高校は決して「楽：らく」な高校ではありません。しかし、「楽しみ」となることはたくさんある高校です。前向きに生活していけば、必ずその「楽しみ」が見つかるはずです。そこで、高校生活のスタートを切った皆さんには次の言葉を紹介します。

「心が変われば、態度が変わる。態度が変われば、行動が変わる。行動が変われば、習慣が変わる。習慣が変われば、人格が変わる。人格が変われば、運命が変わる。運命が変われば、人生が変わる。」

これは心理学者で哲学者のウィリアム ジェームズの言葉だとされていますが、彼以外にもいろいろな人が言っていて、日本語に訳された時点で多少変化しているかもしれません。ちょっと長いので覚えきれないかもしれませんが、とにかく、一大決心をして前向きに取り組んでいけば、人生は必ず良い方向へ進んでいく、ということだと思っています。

「心が変われば・・・」の1つの事例として少しこじつけに聞こえるかもしれませんが、私自身の話をします。私にとってこの大口高校は憧れで、一番入りたい高校でした。そして、入学したら、理科系の部活動に入り、活躍するんだと決心していたのです。生物学や天文学等やりたいことはいくつもありましたが、私の周りには「星好き」の仲間が数人いたので、彼らと一緒に地学部に入りました。ところがこの地学部には先輩たちがおらず、いつの間にか私が部長になっていました。ゼロからのスタートですから、活動内容等自分たちで考え、決めなければなりません。消極的で、人前で話すのが苦手だった私も、生徒会への予算交渉や文化祭の展示企画の作成・説明と、積極的な「態度」、相手を説得するための「行動」
SCの肥後義弘先生の力、そして人に認めてもらうには様々なことをしっかりとしていく「習慣」が身につけてきたような気がします。「人格」が変わったかどうかは私自身にはわかりません。かなり忙しい日々を過ごしていました。でもこのとき私はとにかく高校生活がとても楽しかったのです。



私の高校生活はこの地学部と共にあったような気がします。文化祭での展示に飽き足らず、スーパーの寿屋（今はありませんが伊佐の人々にはデパートのような所でした）の催し場を借り切って天体写真を2回ほど開いたりもしました。余談ですが、これから数年後、私たちの後輩が当時の大口市を「星空日本一の街」に輝かせてくれました。

朝課外・・・きつい、授業・・・だるい、清掃・学校行事・・・面倒くさい、服装容儀・・・気に食わない、こんなマイナス思考では高校生活楽しいはずがありませんね。もちろん私もきつい授業はありましたし、友人関係で苦しんだこともありました。でも、この大口高校での3年間は、私を高校の教師に導いてくれたと思っています。つまり、私の「運命」「人生」が変わったのでしょうか。

前向き・プラス思考は目の前の障害を取り除いてくれます。皆さんも、是非心をプラスの方向へ持っていき、高校生活を楽しんでください。なお、私がなぜ天文・地学ではなく、生物学へ進んだかは機会があればそこで話しましょう。



「安全の日・自転車又は原付車安全利用モデル校指定書交付式」 5/13

本校は、12年前に水難事故、10年前にバイク事故で尊い命を亡くしています。二人の哀悼と二度と悲惨な事故が起きないように決意を新たにする「安全の日」をもうけています。写真は「安全宣言」をする生徒会長の山下真芳君。また、本校は28年度「自転車・原付車安全利用モデル校」に指定されました。



伊佐市交通安全協会から「のぼり旗」が贈呈されました。伊佐市警察署長にモデル校宣言をする西牟田将也君。